

『理科系の作文技術』

私が小学生のとき、夏休みの宿題の読書感想文が苦手でした。なぜなら「何を書いたらいいかわからない」からでした。とにかく感想を書けばいいのだろうと、「このときはこう思った。あのときはああ思った。」と原稿用紙に所定の文字数を埋めることだけに注力していました。では、なぜ読書感想文の書き方がわからないのか？ 今になって考えれば「見本となるような読書感想文を見たことがない」のが原因であったと思います。己の不勉強を棚に上げた言い訳に過ぎないですが、見たことの無いものを書けと言われても書ける訳がないですよね。ところがです。つい最近、「読書感想文のテンプレート」なるものが存在することを知りました。その具体的な内容は例えば[こちら](#)のウェブページを参照してください。自分と同じような苦手意識を持つ人が存在することに安堵しつつ、「40年前に教えて欲しかった…」と心の中でつぶやいたのでした。

それからおよそ10年後、大学に入学して実験の授業が始まりました。実験では測定したデータからグラフを作成し、レポートにまとめて提出します。「レポートにまとめる」作業では、実験の目的、実験方法、実験結果、考察等の文章を書かなければなりません。ここで読書感想文の悪夢が再来するのです。実験レポートに何を書いたらいいのかわからない、毎週提出しなければならないので当然のごとく毎週徹夜、実験レポートを書くのが苦痛で仕方がない…。そんな時期がありました。今になって思えばそのような苦労も必要な経験であったと言えますが、このときも読書感想文と同様に「見たことの無いものを書けと言われても書ける訳がない。見本となるような実験レポートを見せて欲しい。」と強く思ったものです。この窮地を救ってくれたのは、周囲の友人ネットワークを通じて回ってきたいわゆる過去レポでした。良い悪いは置いておくとして、自分の経験から言えば実験レポートの書き方は過去レポから学んだというのが正直なところです。

それからさらに10年後、大学教員として学生に実験科目を指導する立場になりました。大学では実験科目のガイダンスにおいて、実験レポートの書き方を指導しているつもりですが、指導に十分な時間がとれなかったり、あるいは、ややもすると説明の仕方が抽象的になったりして、行き届かない部分があると感じています。そこで、今回の図書紹介ではこちらの書籍を紹介します。



右：理工系の作文技術
中公新書（1981/9初版刊行）新書判/256p 木下是雄
【著】770円（10%税込）

左：まんがでわかる 理工系の作文技術
中公新書（2018/1初版刊行）四六判/176p 木下是雄
【原作】久間月慧太郎【作画】1,320円（10%税込）

レポートや論文の書き方の基礎を丁寧に解説されている定評ある一冊です。まんが版も出版されていますので、難しそうだと思う人はまずはまんが版を読んでみるのがよいと思います。

大学の実験科目では実験の内容をレポートにまとめますが、研究では研究の成果を論文にまとめます。論文の書き方は実験レポートの書き方とほぼ同じです。論文の書き方を学ぶためのトレーニングの一環として実験レポートがあると言っても過言ではありません。学ぶことの基本は「まねる」ことであり、論文の書き方を学ぶ一番の方法は「実際の論文を読む」ことです。「習うより慣れよ」ですね。電子情報通信学会から出版されている論文の多くは有料ですが、ジュニア会員のみなさんは特権としてオンライン版の論文誌を無料で読むことができます。ジュニア会員の特権は[こちらの](#)ウェブページで紹介されています。また、電子情報通信学会通信ソサイエティでは「論文の書き方講座」を開催しています。「論文の書き方講座」の資料と動画は[こちらの](#)ウェブページで公開されています。ジュニア会員のみなさんにとって論文は難解かもしれませんが、必要なときが来たら是非活用してください。

（埼玉大学 木村雄一）